

令和6年12月12日

令和6年第3回神奈川県議会定例会

産業振興特別委員会資料

	ページ
1 国際園芸博覧会について……………	1
(1) 国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の概要……………	1
(2) 県の取組……………	2
2 観光振興の取組について……………	7
(1) 第5期神奈川県観光振興計画の概要……………	7
(2) 計画に基づく主な取組……………	7
3 文化芸術振興の取組について……………	11
(1) 神奈川の魅力的なコンテンツの創出と発信について……………	11
(2) 文化芸術人材の育成について……………	12
(3) 情報発信の展開について……………	13
(4) 地域活性化の推進について……………	13

1 国際園芸博覧会について

(1) 国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の概要

ア 全体概要

開催場所：旧上瀬谷通信施設（横浜市）

開催期間：令和9年3月19日（金）～令和9年9月26日（日）

博覧会区域：約100ha（うち会場区域 約80ha）

有料来場者数：1,000万人以上（想定）

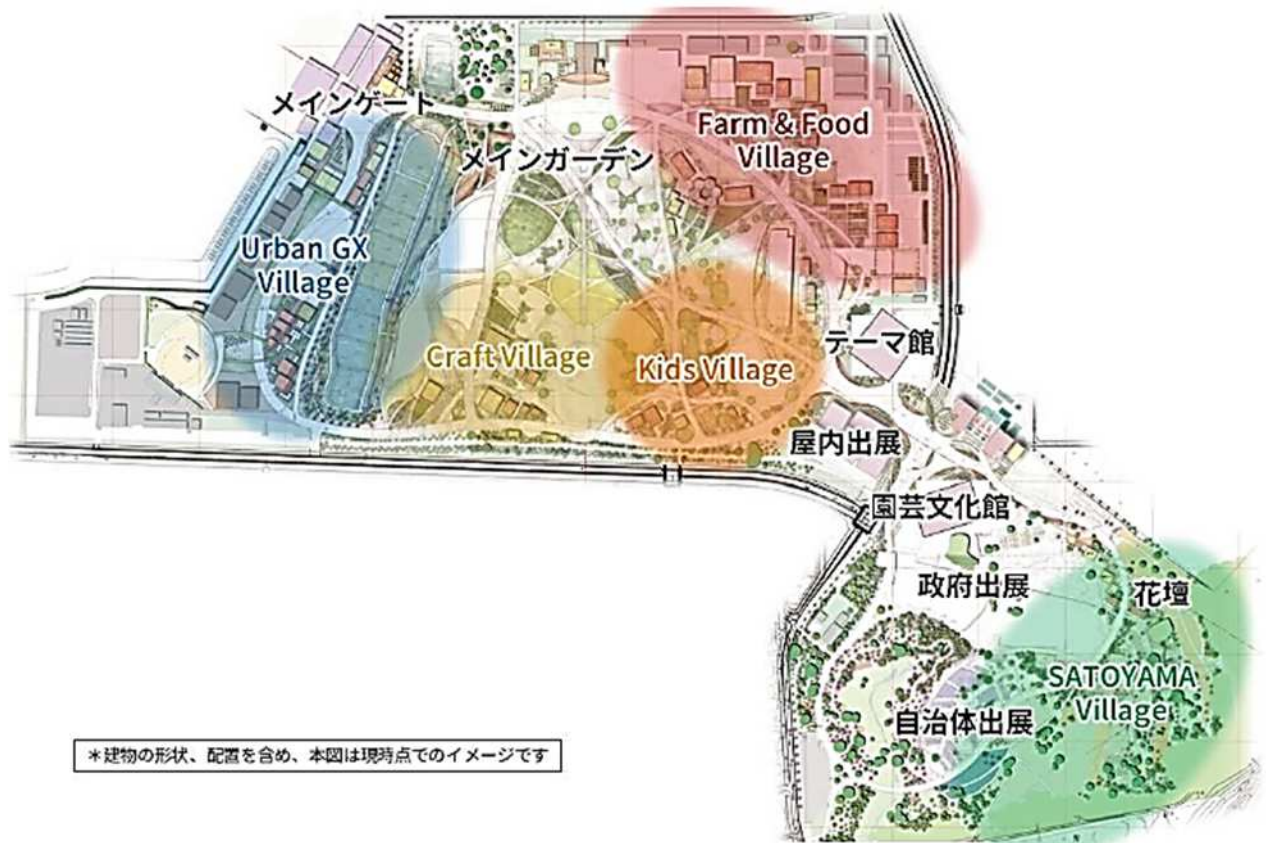
開催主体：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

イ 開催概要

趣旨：国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献

テーマ：「幸せを創る明日の風景」

サブテーマ：自然との調和・緑や農による共存・新産業の創出・連携による解決



会場図

(2) 県の取組

ア 出展に向けた取組

令和6年10月に「神奈川県出展基本構想」を策定し、共生社会の実現、持続可能な社会づくり、未病（ME-BYO）の改善などの県が推進する施策を通じて、県政の基本理念である「いのち輝く“Vibrant INOCHI”」のビジョンを世界へ発信するという出展の方針を示した。

市町村や学校、企業、団体、NPOなど多様な主体と連携し、「みんなで盛り上げ、みんなで創り、みんなが参加」できる万博をめざす。

(ア) 出展の意義

出展により、花き園芸・造園・農の振興を図るとともに、県が掲げる施策を国内外に広くPRし、来場者の意識変容及び行動変容を促すことで、地域における様々な取組に広げていく。併せて、観光振興を含めた経済の活性化にもつなげていく。

(イ) 出展のテーマ

a メインテーマ：いのち輝く“Vibrant INOCHI”

花や緑、農などの植物、自然を通じて、一人ひとりの“いのちが輝く”喜びや感動を伝え、自然も人もともに輝く、持続可能な社会を創造する。

b サブテーマ

[共生社会の実現]

「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念に基づき、誰もが支え合い、受け入れ合う共生社会の実現に向けた取組を展開する。

- ・ 「ともに生きる」の普及
- ・ 農福連携
- ・ Gardens for Everybody

[持続可能な社会づくり]

未来の「いのち」を守り、支え、育む「自然の恵み」を次世代に引き継ぐ取組を展開する。

- ・ 脱炭素社会
- ・ 循環型社会
- ・ 生物多様性
- ・ スマート農業

[未病（ME-BYO）の改善]

心身をより健康な状態に近づけていく「未病 (ME-BYO) の改善」に注目し、その取組を発信する。

- ・ 未病改善
- ・ 食育

(ウ) 施設配置の基本方針

a 施設配置方針

- ・ 計画敷地はメインゲートから300m程度の主動線沿いでアクセスしやすい場所
- ・ 敷地は約5,000㎡であり、屋内施設（最大約700㎡）と庭園で構成

b サステナビリティに配慮した整備・運営

- ・ 県産木材を最大限に活用するとともに、リユースやリサイクルが可能な素材等を積極的に活用
- ・ あらゆる来場者が安全・快適に展示及び体験を楽しむことができるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設設計や展示計画

(エ) 展示に係る基本方針

メインテーマ及びサブテーマを踏まえ、ストーリー性のある展示計画を検討する。

- ・ 県育成品種の展示など、本県ならではの花・緑の魅力を発信
- ・ 県内の産地をPRできる植物を積極的に使用
- ・ 来場者に発見、驚き、感動を与えることができるよう、五感をフルに活用した体験型の展示の実施
- ・ 魅力的な演出を積極的に活用し、来場者を惹きつける変化に富んだ展示の実施

a 花・緑出展

[屋外庭園]

- ・ 園芸を通じた共生社会の実現や持続可能な社会づくりなどのモデル展示の実施
- ・ 県内市町村や植物園など多様な主体と連携した花・緑などの魅力をPRする展示を行い、GREEN×EXPO 2027 訪問後の各地の周遊を促進
- ・ 子どもたちによる庭園づくりなど、県民参加の場として庭園を活用

- ・ 農の景観を活かした展示の実施

[屋内展示]

- ・ 屋外庭園と連動しながら、県が推進する施策をより深く理解してもらえよう、展示内容や手法を検討
- b ステージ出展
- “Vibrant INOCHI”を全世界からの来場者にわかりやすくPRするため、ステージパフォーマンスを制作、上演する。
 - ・ 特に未来を担う子どもたちをターゲットに想定
 - ・ 県民参加によるオリジナルミュージカルを中心に魅力的なコンテンツを制作、上演

(オ) 行催事

- a 県主催の催事
- ・ 神奈川の魅力を発信し、集客に資するような催事を企画、実施
 - ・ テーマを深く訴求し、行動変容につながるイベントプログラムを検討
- b 県内市町村やその他主体による催事
- ・ 県内市町村や学校、企業、団体、NPOなどが、屋内スペースや多目的スペースを活用して実施

(カ) 管理運営

- a 管理運営に関する基本方針
- ・ 来場者の安心・安全、快適性の確保
 - ・ 県民参加を促進するボランティアの積極的な活用
 - ・ ダイバーシティ、インクルージョンを意識した管理運営
- b 展示植物の調達・維持管理に関する基本方針
- ・ 県内各地の生産団体や生産者と連携した、展示植物の安定した供給体制の構築
 - ・ 気候や花きの種類などに応じた適切な維持管理の実施

イ 機運醸成の取組

(ア) 取組の方向性

多様な主体と連携した機運醸成の取組を実施するとともに、2027年には、その取組を通じて、会場にみんなで参加できるような県出

展とすることをめざす。

(イ) 取組の概要

- a 期間別に効果的な広報の実施
 - ・ 会期前、会期中のそれぞれの段階に応じた広報の実施
- b 多様な主体と連携した来場・参加促進の実施
 - ・ 県立高校をはじめ県内の学校等と連携し、多くの子どもたちの来場、参加を促すための取組の実施
 - ・ 県内市町村と連携し、来場者に対し県内の観光周遊を促すことで、経済活性化につなげていく
- c 県のキャラクター等の広報ツール、オウンドメディアを活用したPRの実施
 - ・ 県が保有するPRキャラクターの活用や「GREEN×EXPO 2027 応援団」による各種イベント等での効果的なPRを検討
- d ステージ出展と連携した「絵本」の制作
 - ・ 県出展のメインテーマである「いのち輝く”Vibrant INOCHI”」について、子どもたちを中心とした幅広い世代に分かりやすく伝えるための絵本を制作し、機運醸成等に活用
- e 観光プロモーションの実施
観光情報ウェブサイト「観光かながわNOW」で、GREEN×EXPO 2027関連のイベント情報や神奈川の花の魅力を伝える情報を提供
 - (a) GREEN×EXPO 2027に係るイベント情報を提供
県内各地で開催されるGREEN×EXPO 2027関連のイベント情報を提供
 - (b) 花の魅力を伝える特設ウェブページを開設
特設ウェブページを設置し、県内の花の見頃を伝える「花カレンダー」や「おすすめの花スポット」の情報を提供。また、地元ボランティアガイドによる花のコラムを掲載するとともに、かながわの花をテーマとしたフォトコンテストを開催。

ウ レガシーの方向性

GREEN×EXPO 2027における県出展を一過性のイベントで終わらせず、レガシーを意識した出展・運営を行っていく

- (ア) 園芸や農への理解促進と行動変容

- ・ 展示や催事等を通じ、県産農産物の消費拡大や日常的に花・緑のある暮らしの実現につなげる
 - ・ 多くの参加者による協働が地域の緑化活動などへの取組にも波及していくことをめざす
- (イ) テーマに対する理解促進と行動変容
- ・ 園芸や農が共生社会の実現に果たす役割や自然の恵みの大切さ、心身の健康づくりに役立つことを理解し、共生社会の実現や持続可能な社会づくり、未病の改善に向け、自らの行動を変えていく人々を増やす
 - ・ 閉会後に、展示で使用した花きや樹木、建築資材等を植物園や公園に移植、移設するなど、物理的なレガシーの継承をめざす
- (ウ) GREEN×EXPO 2027への参加経験
- ・ GREEN×EXPO 2027への参加による貴重な経験を社会貢献や国際的な感覚等の醸成につなげることで、開催後の人生の糧としていただくことをめざす

<別添参考資料>

- ・ 参考資料 「2027年国際園芸博覧会 神奈川県出展基本構想」

2 観光振興の取組について

(1) 第5期神奈川県観光振興計画の概要

観光を取り巻く環境の変化や動向に対応するため、令和5年3月に改定した「第5期神奈川県観光振興計画」（計画期間：令和5（2023）年度～令和8（2026）年度の4年間。以下「計画」という。）に基づき、観光振興施策を総合的かつ計画的に推進している。

(2) 計画に基づく主な取組

ア 観光データの活用

- (ア) 地域ごとの特徴を把握するための客観的データの収集・分析
かながわDMOと連携して、市町村別、観光スポット別の基礎データ等をレポートとして提供することで、市区町村や観光協会への分析支援を実施。
- (イ) 7つのエリアの観光データの収集・分析
7つのエリアごとに、人流の多い観光資源のランキングを作成し、各観光資源来訪者の性年代別の割合の分析等を実施。

イ 観光資源の発掘・磨き上げや地域で活躍する観光人材の育成

- (ア) 魅力ある観光地域づくり
 - a 地域と連携した観光資源の発掘・磨き上げ（神奈川県観光魅力創造協議会）
地域の特徴や意見を踏まえた観光資源の発掘・磨き上げを行い、魅力的なコースを作成。
- (イ) 観光消費につながるコンテンツづくり
 - a 体験型などの高付加価値コンテンツの発掘・磨き上げ
県内の観光施設などに働きかけ、箱根や鎌倉の美術館や寺社の貸切など通常の営業では提供していない特別感のあるプログラムの発掘・磨き上げを行い、国内外からの富裕層の取り込みを実施。
 - b ナイトタイムエコノミー、モーニングタイム観光の推進
ナイトエンターテイメントやライトアップなどの観光コンテンツのほか、早朝座禅や朝市など夜間や早朝の時間も観光客が楽しめる観光コンテンツの発掘・磨き上げを行い、発信していくことで、本県への宿泊を促し、滞在日数の増加を促進。

- c MICEを呼び込むユニークベニユーの推進
消費単価の高いMICEを誘致するため、県内のユニークベニユー施設の発掘・磨き上げやプロモーションを実施。
- (ウ) 地域で活躍する観光人材の育成やホスピタリティの向上
 - a 地域で活躍するホスピタリティ人材の育成
 - b 大学との連携による人材発掘・人材育成
- (エ) 観光資源の発掘・磨き上げ等を行うための県内の観光関連事業者や市町村等の連携促進
 - a 県内の観光関連事業者や市町村等の連携促進の場づくり

ウ 観光客の受入環境整備

- (ア) 国内外観光客の受入環境整備
 - a 観光関連施設の利便性の向上
民間事業者が行う無料Wi-Fi、多言語表記、トイレの洋式化等に係る整備への補助を行い、県内観光施設の受入環境整備を促進。
- (イ) ユニバーサルツーリズム促進のための環境整備
 - a 観光バリアフリーに関する情報の発信
ホームページやパンフレットなどを通じて、観光施設等のバリアフリー対応状況を発信するなど、ユニバーサルツーリズムに関する情報を広く発信。
- (ウ) 観光振興に資する交通基盤等の整備
 - a 自転車等の活用による二次交通の充実
公共交通機関等と連携し、観光客の利便性を高める二次交通の手段としてシェアサイクルを活用した交通ネットワークの構築を進めるとともに、地域の交通事情や安全性を踏まえつつ、地域の観光資源の魅力を活用した観光ルートを設定し、県内を訪れる観光客の周遊観光を促進。
- (エ) 観光客の安全・安心の確保（観光危機管理への対応）
 - a 安全・安心に係る情報の提供
観光ホームページや観光案内所、災害時プッシュ型情報アプリなどを通じて、自然災害や事故に関する情報を正確かつ迅速に提供。
 - b 安全・安心確保に係る体制の整備
県観光振興対策協議会において危機管理研修会等を開催。

エ 地域の特徴や意見を踏まえた国内外への戦略的プロモーション

- (ア) 県内来訪を促す多様なテーマに沿ったツーリズム
 - a フードツーリズムの促進

三崎のまぐろ、湘南しらすなど、その地域ならではの食材やグルメなどの食に加え、県内の酒蔵などを観光に活用し、地域活性化を図るフードツーリズムを促進。
 - b サステナブルをテーマとしたツーリズムの促進

観光地の本来の姿を持続的に保つことができるよう、観光地の開発やサービスのあり方を見定め、旅行の設定を行う「持続可能な観光」への関心が世界的に高まるなか、本県が世界の旅行者から選ばれる観光地となるよう、SDGsの視点を取り入れたコンテンツの発掘・磨き上げやプロモーションを実施。
- (イ) 観光関連事業者や他自治体等と連携したプロモーションの推進
 - a 観光の核づくり

観光の核づくり地域（城ヶ島・三崎、大山、大磯の3地域）が実施する民間事業者と連携した主体的かつ効果的な取組等の成果を分析し、県内他地域へ効果を波及させるため、令和6年度から新たに「かながわ観光連携エリア推進事業」を実施。
 - b 市町村・観光協会等との共同プロモーションの実施

県、県観光協会、市町村、市町村観光協会、民間事業者等で構成する「神奈川共同観光プロモーション実行委員会」において、高速道路サービスエリア等でプロモーションを実施。
 - c 関東域内自治体等と連携した広域プロモーションの実施

関東広域DMO（関東域内の自治体（1都10県）等）と連携し、関東エリアの観光地の一体的なプロモーションを実施。
- (ウ) 観光消費を高めるプロモーションの推進
 - a 国内外の富裕層に向けたプロモーションの実施

富裕層をターゲットとして、旅行代理店等と連携し、ラグジュアリーな体験など付加価値の高い、富裕層の趣向に合致した観光コンテンツのプロモーションを推進。
- (エ) 国内向けプロモーションの推進
 - a ターゲット層に応じた戦略的プロモーションの実施

特に東京都、県内から訪れる観光客等様々なターゲットに対し、データに基づいた戦略的なプロモーションを展開。

- (オ) 外国人観光客の誘致を図るプロモーションの推進
 - a ターゲットの設定による戦略的なプロモーションの推進
本県がターゲットに設定している中国、アメリカ、イギリス、ベトナム、台湾等の国・地域に対し、データに基づいた戦略的なプロモーションを推進。
 - b 海外向け広報の実施
海外の現地メディア、インフルエンサー、SNS、レップ等を活用した情報発信により、本県の認知度及び来県意欲の向上を促進。
- (カ) 多様なデジタルツール等を活用した情報発信
 - a ホームページやSNSによる観光情報の発信
観光客が必要な観光情報を簡便かつ手軽に入手できるよう、神奈川県公式観光サイト「観光かながわNOW」と外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip-Kanagawa Travel Info-」などのホームページやSNSを活用し、観光客の多様なニーズにあわせて整理した情報をタイムリーに発信。

オ 観光関連産業の成長促進

- (ア) 地域の産品を活用した情報発信
 - a アンテナショップを拠点とした情報発信
本県のアンテナショップ「かながわ屋」で、県産品の情報発信や消費者ニーズを把握することにより、県産品の発掘・磨き上げを行い県産品の振興を促進。また、多様な関係者と連携して地域の産品のプロモーション等を行い、本県の魅力を発信。
 - b かながわの名産100選を活用した観光振興
かながわ産品の魅力を本県への観光誘客に活用するため、2018（平成30）年度に新たに選定した「かながわの名産100選」の磨き上げと差別化を行い、効果的な販売戦略を確立し、県内外又はオンラインで開催する物産展や商談会等を通じて、プロモーションを展開。

3 文化芸術振興の取組について

(1) 神奈川の魅力的なコンテンツの創出と発信について

ア 共生共創事業

「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きるともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで、すべての人が舞台芸術に参加し楽しむことができる事業を実施する。

- ・シニア企画

シニア劇団の運営、シニアダンス企画の公演などを実施

- ・障がい者等が参加する舞台公演等

障がい者が参加する舞台公演や多文化共生を題材とした公演などを実施

- ・共生共創フェスティバル

令和7年4月から休館する県民ホールを会場に、共生共創事業に関連したプログラムを実施

イ 県営団地におけるシニア合唱事業

高齢化が進んでいる県営団地において、文化芸術の振興とともに、共生社会の実現や、団地におけるコミュニティの活性化、未病改善など健康団地の推進に向けた取組強化を図るため、団地住民等を対象に合唱事業を実施する。

- ・10団地において事業実施

- ・団地コーラス発表会

開催日 令和7年1月

会場 神奈川県立音楽堂

ウ マグカル展開促進補助金

マグカルの全県展開の更なる促進のため、県内の文化芸術団体が新たに行う文化芸術事業を支援する補助金を交付する。

(ア) 一次募集

- ・募集期間 令和6年2月15日～3月15日

- ・交付決定 37件（応募 105件）

(イ) 二次募集

- ・募集期間 令和6年6月4日～7月12日

- ・交付決定 29件（応募 53件）

エ 文化活動団体事業補助金

伝統芸能をはじめとする県民による様々な文化芸術の振興を図るため、県内で活動する文化芸術団体の事業に対して補助金を交付する。

- ・募集期間 令和6年2月15日～3月15日
- ・交付決定 33件（応募 61件）

オ カナガワ リ・古典プロジェクト

本県ゆかりの伝統文化を新しい発想で活用し、現代を生きる文化芸術として再（Re・リ）発信するイベントを開催する。

（in横浜鶴見）

- ・開催日 令和6年10月26日
- 会 場 横浜市鶴見区民文化センターサルビアホール

（in川崎）

- ・開催日 令和6年11月23日
- 会 場 川崎市コンベンションホール

カ 神奈川県民ホール文化フェスティバル事業

令和7年4月から休館する神奈川県民ホールを会場に、休館後の展開に向けた機運を高めるため、現行ホール最後の県主催イベントとして県民の心に残るような公演等を実施する。

- ・開催日 令和7年3月

(2) 文化芸術人材の育成について

ア かながわパフォーミングアーツアワード

神奈川の舞台芸術人材の技術向上や創作活動の活性化・振興を図るとともに、県民へよりレベルの高い舞台芸術の鑑賞機会を提供するため、全国から公募した団体が30分程度の身体表現を伴う舞台芸術を競うアワードを開催する。

- ・開催日 令和7年3月
- 会 場 KAAT神奈川芸術劇場

イ マグカルシアター

若手の文化芸術人材を育成するため、誰もが、演劇、ダンス、音楽、演芸、映画上演、ショー等舞台芸術に関することを自由に発表・発信できるよう、公演を希望する個人・団体に、青少年センタースタジオHIKARI及びアートホールを無料で提供する。

ウ 紅葉坂舞台塾

舞台上にとどまらないコミュニケーション力、表現力、社会性を持つ人材の育成を図るため、ダンス、音楽、演劇等の舞台芸術のレッスン及び成果発表公演を実施する。

- ・レッスン開催日 令和6年6月から8月
 - ・成果発表公演 令和6年8月31日及び9月1日
- 会 場 青少年センター スタジオHIKARI

エ かながわミュージカル

神奈川にゆかりのあるミュージカル公演を、県が指定した審査委員が観劇に出向いて評価し、優秀作品を表彰する。

(3) 情報発信の展開について

ア マグカル・ドット・ネットの運用

芸術・文化イベント等の情報を一元的に発信するポータルサイトを運営し、新規コンテンツの掲載、多言語化への対応及びインターネットを活用した広告を実施する。

イ イベントカレンダーの発行

県内の文化施設で実施される演劇、ダンス、伝統芸能等の様々な文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する冊子を発行する。

- ・発行 年4回、計 26万部

ウ 県民文化祭

県内の文化芸術活動のすそ野の拡大、県民による文化創造や発展の促進等を図るため、9月～12月を「県民文化祭」の期間に位置づけ、期間中に県、県内市町村、民間団体等が実施する文化事業について一体的かつ効果的に広報を実施する。

(4) 地域活性化の推進について

ア マグカル開放区

県民の文化芸術活動を後押しし、日本大通りの更なる活性化を図るため、県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「マグカル開放区」を開催する。

イ 県内各地域でのにぎわい創出

地域のアーティスト等に出演機会を提供するとともに、文化芸術の魅力で地域のにぎわいを創出するため、市町村と連携しながら県内各地域で「マグカル開放区」やリニア中央新幹線「神奈川県駅（仮称）」での取組を実施する。